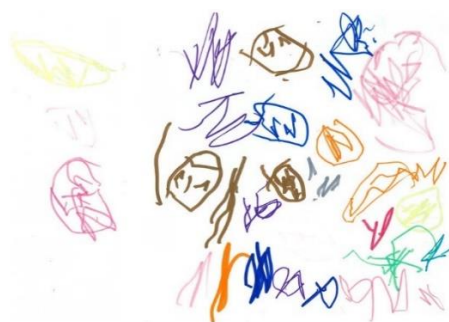




リフレここのえ
2歳女児作

コロナ禍でも

理事長 村松 満

「これほど大変な状況が続くとは・・・」というのが大方のコロナ禍に対する思いではないでしょうか。明けない夜はないとは言え、社会への影響は計り知れないほど大きく、厳しいものになっています。とりわけ、学校や地域で自由に遊ぶこともできない子どもたちにとって、そろそろ我慢の限界が近づいているようにも感じます。

そんな中、私たちの施設にあっては、意外にも子どもたちが元気に過ごしているのが何とも印象的で、心強いものがあります。昨年春の緊急事態宣言中は、幼稚園や学校が休業となり、終日施設の中で過ごさなければなりません。当然、子どもたちもストレスを抱え、問題行動などにつながりはしないかと心配したものです。しかし、子どもたちは逆に、嬉々として仲間とサッカーやボール遊びなどに興じ、不平不満の声はほとんど聞くことはなく、職員もその意外性に驚くような状況でした。この傾向は、その後の自粛生活の中でも同様でした。

これは多分に、施設そのものの環境が作用しているのではないかと考えています。子どもたちが過ごす八栄寮は、約4,000坪という広大な敷地を持ち、自然豊かなエリアの中、運動場や菜園、針葉樹の林などを擁し、至る所、子どもの遊び場になっています。立地上も、高台の頂上付近に位置しているため、周辺の人家と軒を接することもなく、少々の喚声は許容されるような環境にあります。

八栄寮には、こうした非常時であっても、子どもたちが思いっきり元気に遊び回るための諸条件がそろっているのです。家籠りに鬱屈することなく、明るく元気に過ごし、しかも、複数の専門職員による多面的なケアと綿密なウィルス感染防止対策により、一人の感染者も出ることなく今日に至っています。次々と変異して襲ってくる新型コロナウイルスの脅威にも、萎縮することなく過ごすための、何か秘訣のようなものがここにはあるような気がします。

「家庭養育優先の原則」が追求され、施設から里親や養育家庭などへの転換が進む中ではありますが、優れた環境を持つ施設の存在意義について、このコロナ禍が、改めてある一面を浮かび上がらせてくれていると、言えるのかもしれません。

施設運営を預かる者の一人として、これからも何より子どもたちの安心安全を第一に、頼りがいのある施設として運営していきたいと、心から願っているところです。



元気な姿お届けします！

こどものうち八栄寮 施設長 大村 正樹

コロナ禍になって、子ども達の生活が一変した。

学校は休校や時差登校、オンライン授業になった。学校や施設の行事も中止や縮小になった。子ども達が楽しみにしていた修学旅行も中止になった。買い物や外食も、出かける時間や人数を制限するようになった。お父さんやお母さんとの外出やお泊りも、緊急事態宣言がでたときは中止になった。

2019年には誰もこのようなことになっているとは思っていなかった。オリンピックも開催されると思っていた。

そんな中でも楽しく生活しようと様々な工夫をした。

今までの施設行事を中止した代わりに、オリンピック開催の年にちなんで、ミニミニ運動会（もちろん感染症対策を施しながら）を八栄寮の広いグラウンドで行った。名前は「やさかりンピック」。玉入れや、借り物競争、かけっこ。幼児さんから中高生まで全員で楽しんだ。

親子の面会やお泊りができない期間は、電話で子どもの声を届けた。電話口での子どもの笑顔が印象的だった。

コロナ禍でも、就職活動や高校受験は行われた。職員と子どもで毎日のように面接練習や受験対策の勉強を行った。さぼっていることを発見され、叱られている子どももいた。

発表の日、今までと違って、インターネットでの合否発表。希望者全員が就職・高校進学を決めた。報告に来た子ども達はいずれも満面の笑顔。就職・入学承諾書がハンコレスになっていたのには驚かされた。

コロナ禍も、制限のある生活も、もうしばらく続くだろう。そんな中でも子ども達も職員も、協力しあって、楽しい生活を作り上げていきたい。

～皆様の声をお聞かせください～

広報誌「えん」を担当して、全国各地の皆様が、「えん」を手にしてくださり、私たち法人を応援してくださっていることを知り、大変驚き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

コロナ禍の中、遊びに来ていただくことが難しくなっているからこそ、今号では子どもたち、利用者の方、職員の「元気」な姿をお届けできたらの思いで編集しました。

次号では応援してくださっている皆様の「声」をお借りしたいと考えています。「お庭のお花が咲いたよ！」「ツバメが巣立ったよ！」など、皆様の日常のちょっとしたお話や「えん」を読んでのご感想などをお聞かせ頂けたらと思います。

お手紙またはFAXでぜひお寄せ下さい。お待ちしております。



宛先

〒193-0944

東京都八王子市館町 2232-1 こどものうち八栄寮

社会福祉法人同胞援護婦人連盟 広報誌担当

FAX : 042-667-0006



生活が大きく変わったなかで

こどものうち八栄寮 児童指導員 川野 雅貴

こどものうち八栄寮では、コロナ禍でも子どもたちは元気に過ごしています。新型コロナウイルス感染症により、子どもたちの生活が大きく変わりました。昨年度の4月頃は学校が休校になり、自宅で勉強することを余儀なくされてしまいました。しかし子どもたちは投げ出すことはなく、一人一人今の社会に向き合っていました。そして今年も小学校や中学校等に上がる子どもたちがおり、八栄寮は門出を祝いました。

新しい生活が始まってから約一ヶ月が経ち、子どもたちも少しずつ慣れ始めています。ある子は去年、勉強内容が難しくなったことで、気持ちが折れてしまうこともありました。私たち職員は全力で学習支援を行い、今では勉強を一生懸命に取り組んでいます。子どもたちは今の生活に適応しようとする姿があり、日々成長しています。これは子どもたちだけでなく、私たち職員も必要なことだと感じた一年でした。今後も子どもたちと一緒に成長しながら、支援を行っていききたいと思います。

☆オンライン授業で子どもたちも職員も一生懸命☆



目指せ、ブレボーマスター！

こどものうち八栄寮 保育士 横濱 里奈

担当している小学生の最近のハマりごとは「ブレイブボード」。「ブレボー」と呼んでいます。タイヤの付いたボードの上でバランスを取りながら後ろ足をゆらゆらと動かし進んでいくおもちゃです。私からするとこれがとても難しいのですが、子ども達はすごい。運動の得意なある子は数日であっという間にマスターし、ちょっぴり運動が苦手な子も粘り強く練習して今ではすいすいと進んでいます。今も練習中の2年生の男の子はヘルメットを装着して大人の手を握りながら進みます。安定すると「大丈夫！離して！」と力いっぱい握っていた手を離し、更には大人の体を押して、ぴょ〜んと先まで進んでいきます。小さな体を揺らしながら絶妙なバランスを保ち進む姿はとても可愛らしく、転ばないかと心配しながらも思わず笑みがこぼれます。晴れた日にはグラウンドでおひさまを浴びながら、カッコいいブレボーマスターを目指してこれからも練習していきたいと思います。



ご支援頂き新しくなったブレボーです😊「見てて、見ててね！」の得意顔に職員も思わずほっこり

GWも元気な子ども達

こどものうち八栄寮 児童指導員 勝又 央人

施設内外を問わず、いつの時代も子どもたちは長期の連休を楽しみにしています。学習机から解放され思いっきり遊びに没頭できる、子どもにとってかけがえのない期間です。

八栄寮では毎年5月5日を「こどもの日フェスティバル」と称し、八栄寮に欠かせない年中行事としています。しかし昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の煽りを受け、フェスティバルは中止となってしまいました。

いつもは大きなお祭りの中で跳ね回る子ども達ですが、社会情勢を考慮し、八栄寮では昨年から、自慢の大きなグラウンドを使った運動会を実施しています。「やさかりンピック」と名付けられた運動会では、幼稚園児から高校生までの八栄寮に在籍する子が皆で身体を動かし、お互いの競技を応援しながら日頃の溜まったエネルギーを爆発させました。普段はチクチクした言動の中高生も、競技では小さい子の目の前で持てるパワーを十二分に発揮し、裏では職員に交じって準備の手伝いをして、格好良い年長者として生き活きと輝いていました。どの子も元気ハツラツとして、当日の暑い太陽に負けない熱気が当施設にはありました。

「元気」の語源は、「減気」、病気を減らす事の意味だとされています。子どもたちの元気できっと病気も逃げ出すに違いないと思う1日でした。



幼児さんから高校生まで、
皆で一緒に楽しみました！



幼児さんはおそろいのユニフォームで
参加してくれました！

※プライバシー保護のため、写真は加工しています。

これからも『準備』をすすめます

リフレここのえ 施設長 横井 義広

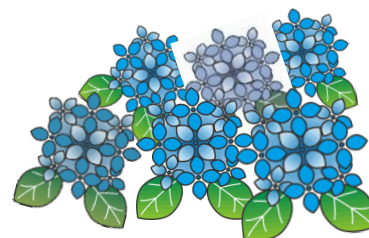
元サッカー日本代表の本田圭佑は、インタビューや自分のブログで繰り返し「準備」の大切さを述べています。中でも「気持ちの準備以上のものはないと思う」と述べています。また「俺なんか毎日勉強、学生るときよりも、今の方が勉強しているよ」と言い、高校サッカーをしている時には、ワールドカップでの優勝を口にしていました。世の中コロナウイルス感染症が蔓延していますが、私たちの生活は続いています。リフレここのえでの一年間のそれぞれの「準備」の様子と結果について報告します。

高校生で入所した子どもは、一年間学校に通い続け、専門学校に合格しました。家庭の事情で準備できるお金が少なかったのも、こどものうち八栄寮に協力してもらい、奨学金の申請をしました。3ヶ所から奨学金計100万円程をいただき、初年度の学校の経費に使わせていただきました。お母さんは、「もしもリフレここのえに入らなければ、子どもを進学させることはできなかったと思います」と話していました。

現在リフレここのえには、若いお母さんが多く、10代から30代で全体の4分の3を占めています。様々な事情で高校を中退したこと等で中卒の学歴を持つお母さんの中で、勉強に意欲のある方には、高校卒業資格を取ることを推奨しています。昨年度は、毎月のレポートを苦勞して作成して、職員にも協力してもらいながら、みごと通信高校を卒業したお母さんがいました。今年度も、通信高校に合格して、卒業を目指して勉強に励んでいるお母さんがいます。また、看護専門学校に社会人卒で合格したお母さんは、退所した現在も引き続きリフレここのえで支援を続けています。2年後には立派な看護師さんになっていることでしょう。無料塾のオリーブ八王子は、創設以来6年を迎えて、高校に25人が合格し、専門学校に2人が合格、大学に2人が合格という成果を出しています。

職員も地道に努力を続けています。昨年度、学童を担当している職員が、より子どもの発達や心理を学びたいということで、保育士の資格を取り、母子支援職員は何年も時間をかけて、今年みごと社会福祉士に合格しました。

単に学歴や資格を求めているのではなく、学びの機会とは子どもにとっては夢の実現につながることであり、お母さんにとっては何らかの事情で成し得なかったために積み残したものを取り戻す過程かもしれません。そして職員にとっての学びは、仕事は「これでいい」という経験だけの世界ではないので、いつでも進歩していかなければならないことだと思います。学習や勉強・知識を通して、職員も利用者も人生を豊かにしていってほしいと思います。



各施設 在籍者数

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数
幼児 10名 小学生 18名	乳幼児 19名	令和2年12月～令和3年5月末
中学生 9名 高校生 13名	小学生 9名	ショートステイ 297名
【計50名】	中高生 1名 専門 1名	トワイライトステイ 29名
	【計20世帯50名】	合計 326名

リフレ学童の日常

リフレここのえ 少年指導員 島田 菜々美

4月から新年度が始まり、学童の人数も増え毎日賑やかな遊び声がしています。コロナウイルスが猛威を振るう中でも子どもたちは元気に遊んでいます。新しく学童に入った子に遊びのルールや、やり方を優しく教えていたり、学童の約束を教えてあげていたり等子どもたちの優しさを見ることが出来ました。

マスクをしながらでも子どもたちは元気いっぱい遊んでいます。最近では子どもたちが発案したルールで遊ぶ様子も多く見られます。最初は少人数で行われていた遊びがだんだんと周囲の子ども達へと伝わり、いつの間にか全員での遊びに発展していきます。新しく発案した遊びやルールに不満を言う子もおらず「なにそれ」「どうやるの」と元気いっぱいに新しい遊びに取り組んでいます。

年齢に関わらず、他人を思いやる気持ちが全員にあり、他児に物を譲ったり、怪我をしてしまった子に対し「大丈夫？」と優しく声をかけたりする姿が多く見られます。

コロナウイルスの影響からおやつの時間には黙食を徹底しています。初日から子どもたちは一言も話さずにおやつを食べており、最近ではおやつを食べ終わった子からジュースチャージャーを使って黙ったままできる遊びをする等、工夫をしながら楽しんでいる姿が見られます。大変なことも多くある中でも、今の生活に合わせて子どもたちは元気いっぱいに遊んでいます。

元気に春を迎えています

リフレここのえ 母子支援員 野島 未央花

リフレここのえではこの春5人のお子さんが新入園・新入学を迎えました。また通信制の高校へ入学したお母さんや資格のための学校へ通い始めたお母さんもうらっしゃり、たくさんの方が新生活が始まる春となりました。初めはそれぞれに不安と期待の入り混じった表情で出かけていくお母さんやお子さんたちでしたが、日々段々と、新しい生活が日常になってきていることを、行き帰りの際の「いってらっしゃい」や「おかえりなさい」を言うたびに感じています。

入学前、早起き出来るか心配というお子さんのために早起きスタンプ帳を作ったり、登園までにある程度の食材を食べさせられるような離乳食の献立を考えたりと、この春を迎えるためにリフレの職員もお母さんやお子さんたちと一緒に準備に取り組んできました。そんな準備を経て、今楽しそうに学校や保育園から帰って来る姿に職員もお母さん達と一緒に成長を喜んでいます。

依然として世の中では閉塞的な日々が続いておりますが、リフレのみなさんの姿はとても活き活きとしており、人の営みの強さを感じさせてくれます。この先季節とともに生活が変わりながら、どのような賑わいがリフレで見られるのか、とても楽しみにしています。

※背景写真はリフレ学童保育の4月の制作「ちぎちぎ花」

行事報告



東京八王子南ロータリークラブ様に招待をしていただき、徹底した感染対策の中で子ども達と遠足へ行くことが出来ました。久しぶりの遠出に子ども達は目を輝かせて一日を満喫していました。



粘土ぬり絵
カラフルにできました

お天気にも恵まれたことで、外遊びも屋内でのプログラムも盛りだくさんな一日でした。
一日中みんなで元気いっぱい遊んだ後、おうちで待つお母さんに、沢山の作品とお土産話を
持って帰りました。

お花で
冠を
よ



※プライバシー保護の為、写真を加工しています

※写真を撮る際に状況によってマスクを外している場合があります

分けてもらった元気

無料学習塾オリーブみらい 塾長 内山 大樹

地域に向けた無料学習塾オリーブみらいも今年で5年目を迎えます。学習だけでなく、食事の提供や家庭訪問によって家族への支援も視野に入れた活動を行っています。

家庭のことや、親御さん自身の相談が寄せられることも多く、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減ってしまった話や、自粛中のストレスを抱えていて…という話も伺いました。

昨年春、初めての緊急事態宣言をきっかけに、塾ではオンライン授業を導入しました。小中高全ての学校が休みとなり、毎日家で過ごしている生徒達が気がかりでしたが、電話やLINEで「バイト始めました」「今日の夕食はこれです」と頻繁にメッセージをもらいました。寄附で戴いた食材を持って訪問すると、生徒たちはみんな玄関先で照れ臭そうにニコニコしています。最近の家でのエピソードを矢継ぎ早に教えてくれるお母さん。その間、バタバタと走り回っている幼いきょうだい達。そんな姿に私達の方が元気づけられました。



この4月には9名が新高校生になりました。今年度も生徒や親御さん、そしていつも多大なお力を貸して下さるボランティア講師の方々と楽しく過ごしていきたいと思っています。